

## 子宮内膜マイクロバイオーム検査と感染性子宮内膜炎検査の有効性の検討

### 1. 研究の対象

当院で体外受精、顕微授精などの生殖補助医療を受けており

2018年12月から2025年12月に子宮内膜マイクロバイオーム検査(Endometrial Microbiome Metagenomic Analysis: EMMA)と感染性慢性子宮内膜炎の有無を調べる感染性子宮内膜炎検査(Analysis of Infectious Chronic Endometritis: ALICE)(TRIO検査に含まれる)を受けられ、その後胚移植を行なった方

### 2. 研究目的・方法

体外受精、顕微授精後の胚移植時に慢性子宮内膜炎(Chronic Endometritis: CE)があると着床率、流産率の成績が低下することが近年報告されています。反復着床不全(良好な胚を複数回移植しても妊娠に至らない)の方には CE が原因の方が一定数いることが推察されます。腔内と比較すると非常に少ないですが子宮内にも細菌は存在し、それらのバランスが CE に関与しているとされています。子宮内膜を採取しその DNA を抽出し、次世代シーケンサーという方法を用いることで子宮内に存在する Lactobacillus 属などの各細菌の分類とバランスを調べることができます(子宮内膜マイクロバイオーム検査(Endometrial Microbiome Metagenomic Analysis: EMMA)と感染性慢性子宮内膜炎の有無を調べる感染性子宮内膜炎検査(Analysis of Infectious Chronic Endometritis: ALICE)。その結果を基に CE に対する抗生剤治療や Lactobacillus 属のプロバイオティクスを投与することで着床率、流産率の改善が期待されていますが、その有効性については未だ議論の余地がありません。当院では 2018 年 12 月から反復着床不全の方に EMMA/ALICE 検査の情報提供を行い希望者に検査を施行し、その結果に基づいた抗生剤治療や Lactobacillus 属のプロバイオティクスの推奨について情報提供を行っています。本研究では 2018 年 12 月から 2025 年 12 月までのおよそ 150 症例の情報(年齢、妊娠分娩歴、既往歴、不妊期間、不妊原因、EMMA/ALICE 結果、移植胚の情報:受精から凍結までの日数、胚のグレード、着床の有無、流産の有無)を用い EMMA/ALICE 結果に基づいた抗生剤治療や Lactobacillus 属のプロバイオティクスの投与がその後の胚移植の着床率を改善するかを統計学的に解析し、EMMA/ALICE 検査の有効性を明らかにすることを目的としています。

研究実施期間:研究実施許可日～2026年3月31日

利用を開始する予定日:2024年6月26日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

以下の情報

- 1) 患者基本情報：年齢、妊娠分娩歴、既往歴、不妊期間、不妊原因など
- 2) EMMA、ALICE 結果：存在する細菌の種類とその割合、推奨される抗生剤
- 3) 胚移植の情報：受精から凍結までの日数、胚のグレードなど
- 4) 着床の有無、流産の有無など

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、  
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出  
ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

秋田大学大学院医学研究科医学専攻 機能展開医学系 産婦人科学講座 助教 岩澤卓也  
〒010-8543 秋田市本道1丁目1番1号  
TEL:018-884-6163

研究責任者：

秋田大学大学院医学研究科医学専攻 機能展開医学系 産婦人科学講座 教授 寺田幸弘

-----以上